

令和7年度 第1回向日市子ども・子育て会議

○日 時 令和7年8月20日(水) 午後3時30分～午後4時30分

○場 所 永守重信市民会館 2階 第2会議室

○出席者 (出席委員15人)

安藤和彦委員(会長)、池田和子委員、上田睦美委員、大川猛委員、岡本綾子委員、奥野豊勝委員、海東紗代子委員、田中久美子委員、中西優子委員、能勢文音委員、花安肇委員、松田美佳委員、眞鍋冬海委員、宮地健一委員、安場光弘委員
(50音順)

(事務局16人)

【市民サービス部】

柴田市民サービス部長、伊藤市民サービス部副部長、紺野福祉事務所長、藤野健康推進課長、沢合子ども家庭課長、大野子育て支援課長、山根保育係長、楠堂子育て支援係長、山本子育て支援係主査

【教育部】

長谷川教育部長、安田教育部副部長、小畑生涯学習課長、浦元文教課長、上西学校教育課担当課長

【議題関係者】

大原野児童福祉会櫛引理事長、もずめこども園山口園長、

○欠席者 (委員5人)

稲野有亮委員、津田陽委員、林田彩歩委員、船倉哲生委員、山内俊祐委員
(50音順)

○傍聴者 0人

○議 題 (1) 令和7年度向日市子ども計画に係る主要事業について
(2) 認定こども園(もずめこども園)利用定員の変更について

<議題1>令和7年度向日市子ども計画に係る主要事業について	
事務局	資料1について説明
委員	(資料1についての主な質疑・意見) 保育環境改善事業について、第1保育所の空調設備の更新時期は決まっているのか。
事務局	工事の着手は来年度以降となる。現在、環境面への配慮から、空調をガス式から電気式に変更することや、既設設備の再利用等も含め、設計を進めている。
委員	5～6年生の自習室拡充事業について、居場所づくりと位置付けるなかで、スペースを開放し、こどもが自由に出入りできるだけで、大人による(こどもたちへの)フ

事務局	オローはないのか。 図書館では、お子さんのご希望されるような図書の紹介をしている。また、シルバー人材センターに委託し、安全管理の程度にはなるが、受付見守りを行っている。
委員	生活学習支援事業の内容、自習室拡充事業についての現況、学校給食費保護者負担軽減事業について、給食費の未払い状況について知りたい。
事務局	生活学習支援事業については、利用が10名弱有り、子育てに困難を抱える家庭に対し、こどもが地域で生活できるような支援プランを作成し、こどもたちと交流を進めながら、学習支援や、生活リズムを整え、保護者不安の軽減を図っている。 自習室拡充事業については、今現在の集計で、図書館で、約1か月間で60名、各地区公民館で中学生～大学生を含めて57名のこどもの利用があった。 給食費の未払いについては、学校が徴収の私会計から公会計になったことにより減少しており、調定に対する収入の状況は99.87%、未払いは約0.1%程度である。未払い分についても、徴収を委託により進めている。
委員	第4向陽小学校は児童も多いこともあり、5、6年生が商業施設をうろうろしていることがある。4向小の近くに公共施設があるかは把握できていないが、自習室拡充事業の成果が上がっているようであれば、今後市内の幅広い場所で実施してもらえれば、こどもたちが行き場に困らないと思う。
委員	（自習室拡充事業について）今後利用者が増えてきた場合に、コミュニティセンターは、中高生や大学生も利用できるため、不特定多数の人が集まる場所になり、不安を持つ保護者がでてくる可能性はある。 京都市の児童館のような、年間を通じて常設され、学童保育の所属に限らず児童が自由に利用でき、交流・遊びができる施設の設置があったらよいと思う。
<議題2>認定こども園（もずめこども園）利用定員の変更について	
事務局	資料2について説明 （資料2についての主な質疑・意見）
委員	福祉事業である保育園と教育事業である幼稚園、この異なる事業の一本化は、国家レベルで審議会事項とされている。認定こども園と幼稚園は異なるので、3歳から5歳のこどもの幼児教育の質の担保が大事であり、福祉の観点のみで、社会ニーズとして1号認定を増やすのではなく、審議会として意見の整理が求められる。